

# 安芸市穴内地区

## 地域農業の未来を考える集落座談会（1回目まとめ）

1. 実施日時：令和6年9月12日（木）14:00～15:30

2. 実施場所：安芸市立穴内公民館2階ホール（安芸市穴内1479番地）

3. 参加者：地域の担い手等（6名）  
JA高知県安芸営農経済センター等（1名）  
高知県安芸農業振興センター（2名）  
安芸市農業委員会（1名）  
安芸市農林課（1名）

計11名

4. テーマ：「穴内地区が目指す農業の将来像」

5. 会議録（参加者からの意見）

### ①地域農業の現状及び課題

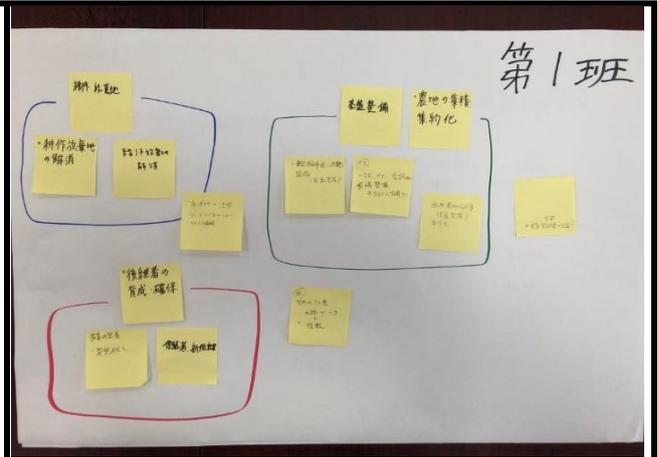
- ・後継者となる若者の定着には安定的な収入が必要。
- ・穴内川以東は水路が一つで慢性的に水が足りていない。
- ・不整形で狭い農地が多い。
- ・地域内に居住する担い手は多くなく、自身の農地を維持することで精一杯。
- ・耕作放棄地の解消は待ったなし。相続未登記農地は手が付けられなくなる。
- ・安芸地区は栽培技術の高い農家は多いが、殆どが中小の家族経営体である。
- ・一つ一つの農地が小さく、飛び地になっているため移動の口スがある。
- ・施設園芸は農閑期のほか、厳寒期にも収量は落ち込むため収入の確保が課題。
- ・露地栽培は自然条件に左右されやすく、確実な収入として計算ができないのでリスクが高いと考えている。オクラなどの単価も下がっている。
- ・有機農業に取り組む農家は当地区にはほとんどいないのでは。

### ②課題解決に向けた取組

- ・耕作条件の悪い遊休農地については無理に耕作せずに、ソーラーパネルを設置するなどして有効活用を図る。
- ・地域が共同で使用できる農機具倉庫を整備する。
- ・高規格道路整備の残地を集約するなど、小規模なほ場整備を実施する。
- ・新たな担い手確保のため、地域で研修を行う機会をつくる。  
(Uターン就農、地区外からの新規就農促進)
- ・農福JAS取得など、地域として何らかの付加価値を付けることを検討。
- ・中小の家族経営体でも高い技術があって労務管理さえしっかりすれば規模拡大が可能であるため、法人化を進めて大規模経営体を増やす。
- ・耕作放棄地については、行政等関係機関からしっかりと指導を行う。
- ・加工品の開発と販売先確保に取り組み、儲かる農業を実現する。
- ・基盤整備により農地を集約して大区画化していく。

# 【座談会の様子】

## 《第1班》



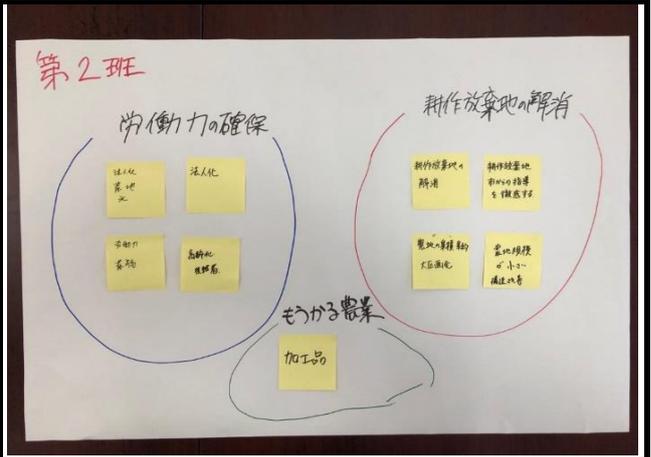
テーマ 穴内地区が目指す農業の将来像	
第1班	
No.	こんな地域農業を実現したい！ 実現するための方法
1	<b>耕作放棄地の解消</b> ・ソーラーパネルなど有効利用 ・共同で使える農機具倉庫
2	<b>基盤整備</b> ・小規模なほ場整備 ・高規格道路の残地の集約化 ・水源の確保
3	<b>後継者・新規就農者の育成・確保</b> ・収入の安定 ・地域で研修する機会を多くする ・Uターン就農、地区外からの就農



### ■班内で出された意見■

- ・地域農業の維持には後継者の育成と確保が重要。
- ・若者の定着には安定的な収入を確保する必要がある。
- ・耕作条件の悪い遊休農地については、無理に耕作せずに別の利活用を検討してはどうか。
- ・農地維持には水を確保してほしい。穴内川以東は水路が一つで水が足りていない。
- ・東部自動車道整備の残地となった農地を集約していく。
- ・当地区は不整形で狭い農地が多いので、ほ場整備により四角に整地したい。
- ・共同の農機具倉庫建設を検討する。
- ・農地の集積、集約化が欠かせない。
- ・空きハウスなどが出ると、安芸町など地区外からの担い手が耕作するケースが増えた。地域に住む農家に余裕はなく、自身の農地を維持することで精一杯。

## 《第2班》



テーマ 穴内地区が目指す農業の将来像	
第2班	
No.	こんな地域農業を実現したい！
1	耕作放棄地の解消
2	もうかる農業
3	労働力の確保

実現するための方法	
1	農地の集積・集約、大区画化 市からの指導と徹底
2	加工品の開発 販売先の確保
3	法人化を進める



### ■班内で出された意見■

- ・耕作放棄地の問題は全員がしっかり考えないといけない。未登記で相続人が分からない農地は、売買も賃借も困難となり、耕作放棄地かヤミ小作となる。
- ・10年前から農福連携に取り組んでおり、今後は農福JAS取得など付加価値を付けることも検討している。
- ・安芸地区は栽培技術の高い農家は多いが、殆どが中小の家族経営体。技術があっても労務管理さえしっかりすれば規模拡大もできるので、法人化を進めて大規模経営体を増やしていけば耕作放棄地の解消につながるのでは。経営管理についてはコンサル活用も可能。
- ・耕作放棄地については、行政からしっかりと指導をしてほしい。
- ・当地域は水が少ないので対策が必要。
- ・一つ一つの農地が小さいので、構造改善により大区画化を進める。飛び地となっている農地の移動時間は年単位で積上げれば、経営上の大きなロスとなる。
- ・収入確保に向けて加工品開発に取り組みたいが、販売面に課題がある。開発まではできても販売先を確保するまでいかないケースが多い。
- ・施設園芸の農閑期はもちろん、厳寒期にも収量は落ち込むため、露地栽培で何か収入があれば助かる。ただ、露地は自然条件に左右されやすく、計算ができないためリスクが高い。